

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-ウ	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化	施策	① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大
			施策の小項目名	○魅力ある特産品開発の促進
主な取組	県産品のデザイン活用の促進			
対応する主な課題	②離島特産品の製造業者が市場ニーズを把握することは困難であり、また、小規模零細業者が多いことから、独自に製品開発、販路拡大等を展開することは、資金力、生産力、人材、ノウハウ等の面から極めて厳しい現状にある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県産品の製品開発等におけるデザイン活用を促進し、県産品の差別化、高付加価値化を目指し、県内デザイナーのデザイン力の向上と県内企業に対するデザイン活用の普及を図る。		1回 展示会・研修 会の開催			30製品デザイン を活用した製品 開発	
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【098-866-2337】			
		企業等へのデザイン活用手法の普及				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	工芸製品新ニーズモデル創出事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	委託	637	620	0	0	0	0	県単等	OR3年度： 工芸振興センターにおいて、技術支援の一環でデザイン思考に関する人材育成の実施や、デザインに関する技術相談など随時対応した。 OR4年度： 工芸振興センターにおいて、技術支援の一環でデザイン思考に関する人材育成の実施や、デザインに関する技術相談など随時対応した。
予算事業名	ファッション・デザイン普及事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	委託	8,372	8,622	9,380	6,892	6,017	6,048	県単等	OR3年度： 工芸産業の振興を図るため、新たなニーズに対応した製品開発を6件を実施するとともに、工房運営セミナーを開催した。 OR4年度： 工芸産業の振興を図るため、工芸工房6事業者の課題解決を実施するとともに、工房運営セミナーを開催する。

様式1(主な取組)

活動指標名		製品開発数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		48	32	38	38	54	30	100.0%	6,017	順調	6事業者を採択し、流通やマーケティング、試作品開発、販路開拓等の支援を行った。支援対象の工芸事業者により現代の消費者ニーズに対応した完成度の高い商品が54アイテム開発された。また、Webで工房運営セミナーを開催した。
活動指標名		研修会及び技術講習会の開催				R3年度					
実績値		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
		1	1	0	0	0	0			市場ニーズに対応したより完成度の高い製品が、計画値を超える54アイテム開発され、商品化に繋がった。 また、本事業を通じて、デザインやマーケティング手法等の勉強会や、県外展示会への出展などによる人材育成も行い、市場ニーズへの対応や販路開拓、デザイン等に関する意識の高い人材が工芸産業に蓄積された。 さらに、工房運営セミナーの開催は、工芸事業者に工房経営者としての認識を広める第一歩となった。	
活動指標名						R3年度					
実績値		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和3年度 of 取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> デザインに関する技術支援に関しては、工芸振興センターや工業技術センターなど出先機関と連携して実施する。 県内企業（製造業）へのデザインマインドの啓発については、関係機関や県内の関係団体と連携しながら推進していく。 						<ul style="list-style-type: none"> 工芸振興センターにおいて、技術支援の一環でデザイン思考に関する人材育成の実施や、デザインに関する技術相談など随時対応した。 工房運営セミナーをWebで開催し、25名の参加があった。工房運営セミナーの開催は、工芸事業者に工房経営者としての認識を広める第一歩となった。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・補助金の交付決定が9月となり、補助事業の実施期間が6ヶ月と短期間であったため、補助事業者のスケジュールがタイトとなった。

○外部環境の変化

・本事業の支援を受けて工房経営の改善や取引先が増加した事業者が出て来ており、成果が現れてきている。

・工房運営セミナーの開催や、事業者募集の説明会や成果報告会で支援を受けた事業者を招き体験談を紹介する機会を設けたことで、工芸事業者に工房運営に対する関心が広がり始めている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事業者採択者が余裕を持って事業を実施できるように、採択を早期に行う。
- ・補助事業の効果的な遂行にあたり、各事業採択者の意識改革が求められる。
- ・引き続き、セミナーの開催等により工房運営への関心を高める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・事業者採択者が余裕を持って事業を実施できるように、採択を早期に行えるよう検討する。
- ・効果的な製品開発だけでなく、安定した工房運営を行うための原価計算、販路開拓、サービスなどの課題解決が必要であることから、工芸事業者の工房運営に対する関心や意識をさらに高める必要がある。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-ウ	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化	施策	① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大
			施策の小項目名	○魅力ある特産品開発の促進
主な取組	原材料の安定確保			
対応する主な課題	③本県の離島工芸産業は、宮古上布や久米島紬など全国的にも評価の高い品目があるものの、地理的制約により、市場ニーズの変化への対応不足や人材の確保難等の課題があり、生産額は大きく減少している。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
工芸品に使用される原材料の供給体制を強化するために、供給事業者の育成・確保及び技術力向上により、良質な原材料の安定供給を図る。						
実施主体	県	安定確保に向けた関係機関や事業組合等とのネットワークの構築、原材料供給体				
担当部課☐連絡先	商工労働部ものづくり振興課 【098-866-2337】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
工芸品原材料確保事業									OR3年度： 本県工芸品の効率的な原材料供給体制を強化するために、原材料供給業者の確保・育成及び技術力・品質向上を図った。(芭蕉系、苧麻系、琉球藍)
県単等	委託	9,000	19,770	25,333	20,883	15,715	—		OR4年度： —
工芸品原材料供給強化・調査事業									OR3年度： —
		—	—	—	—	—	9,090	県単等	OR4年度： 本県工芸品の効率的な原材料供給体制を強化するために、壺屋焼の化粧土の採掘可能地域を調査し、持続的な原材料供給体制の構築を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名					R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値					実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
糸芭蕉の生産技術者養成									15,715	順調	<p>本県工芸品の原材料供給業者の確保・育成及び技術力向上を図るため、喜如嘉の芭蕉布に使用される芭蕉糸の採織技術者の育成研修、糸芭蕉及び琉球藍の栽培・管理技術などの試験研究を実施。また、琉球藍の染料製造工程および染色性に関する試験研究、苧麻糸の病害に対する栽培試験を実施した。</p>
H29年度	H30年度	R元年度	R2年度								
3	2	2	2	3	3	100.0%					
検討会(委員会)の開催											
実績値					実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
H29年度	H30年度	R元年度	R2年度								<p>糸芭蕉の栽培技術者3名の実地研修、糸績みの技術者3名の技術研修を行った。それと平行して、糸芭蕉の特性から栽培技術の確立に向けた試験研究を実施した。</p> <p>琉球藍については、泥藍を精製する際の条件及び染色性に関する研究を実施した。</p> <p>また、苧麻糸の病害を抑えるための栽培試験の実施、糸芭蕉と琉球藍の各部会の実施と、事業を統括する委員会を各2回ずつ、琉球藍の情報交換会を1回開催した。</p>
2	2	2	2	2	2	100.0%					
情報交換会およびシンポジウムの開催											
実績値					実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
H29年度	H30年度	R元年度	R2年度								
	2	1	0	1	1	100.0%					
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和3年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉糸の生産技術者の育成と、糸芭蕉の栽培・管理・採織技術の試験研究を継続して実施する。 泥藍製造工程の改善及び藍建て技術や染色性に関する試験研究の継続と、技術移転のためのマニュアル化に向けた取り組みを進める。 苧麻糸の手績み技術者確保のための人材育成支援や、紡績技術に関する調査を実施する。 各原材料に関する情報共有のための部会・委員会を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> 糸芭蕉の栽培管理に係る一連の作業を担う人材育成と、採織技術(糸績み)に関する技術研修を実施した。 泥藍製造工程における藍色素抽出方法の探求と、染色性に関する試験を実施。「琉球藍栽培マニュアル」を作成した。 苧麻糸については、宮古島市で糸績みの技術講習会を行ったほか、病害を抑えるための栽培試験を実施した。 事業を統括する委員会を2回、糸芭蕉及び琉球藍それぞれの技術部会を3回ずつ開催。琉球藍については情報交換会を1回実施した。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・藍、苧麻の栽培、製造方法等について本事業で研究を重ね、手法の周知を行ってきた。今後は生産事業者当事者間でのネットワークづくりによる実践的な意見交換の場が必要。

○外部環境の変化

・壺屋焼の原料となる化粧土の採掘可能地域が観光開発などにより減少しており、原料枯渇の危機にある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・藍、苧麻について意見交換の場や体制の構築を行う必要がある。
- ・化粧土の採掘可能地域の選定を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・藍、苧麻についてシンポジウム等の意見交換の場の開催を検討する。
- ・化粧土の採掘可能地域の選定のため、ボーリング調査等を実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名		製品開発数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
		48	32	38	38	54	30	100.0%	6,017	順調	<p>6事業者を採択し、流通やマーケティング、試作品開発、販路開拓等の支援を行った。支援対象の工芸事業者により現代の消費者ニーズに対応した完成度の高い商品が54アイテム開発された。また、Webで工房運営セミナーを開催した。</p>
活動指標名						R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>市場ニーズに対応したより完成度の高い製品が、計画値を超える54アイテム開発され、商品化に繋がった。 また、本事業を通じて、デザインやマーケティング手法等の勉強会や、県外展示会への出展などによる人材育成も行い、市場ニーズへの対応や販路開拓、デザイン等に関する意識の高い人材が工芸産業に蓄積された。 さらに、工房運営セミナーの開催は、工芸事業者に工房経営者としての認識を広める第一歩となった。</p>			
	活動指標名						R3年度				
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B				
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和3年度 of 取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 補助金の公募、審査、採択の手続きに係るスケジュールを早期に行えるよう検討する。 効果的な製品開発を進める環境の構築には安定した工房運営が前提となることから、工芸事業者の工房運営に対する関心や意識をさらに高める必要がある。 						<ul style="list-style-type: none"> 補助金の公募、審査、採択については前年より3週間程度早めて行うことができたが、採択後の事業者との個別調整に時間を要したため、交付決定は例年よりも遅れた。 工房運営セミナーをWebで開催し、25名の参加があった。工房運営セミナーの開催は、工芸事業者に工房経営者としての認識を広める第一歩となった。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・補助金の交付決定が9月となり、補助事業の実施期間が6ヶ月と短期間であったため、補助事業者のスケジュールがタイトとなった。

○外部環境の変化

・本事業の支援を受けて工房経営の改善や取引先が増加した事業者が出て来ており、成果が現れてきている。

・工房運営セミナーの開催や、事業者募集の説明会や成果報告会で支援を受けた事業者を招き体験談を紹介する機会を設けたことで、工芸事業者に工房運営に対する関心が広がり始めている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事業者採択者が余裕を持って事業を実施できるように、採択を早期に行う。
- ・補助事業の効果的な遂行にあたり、各事業採択者の意識改革が求められる。
- ・引き続き、セミナーの開催等により工房運営への関心を高める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・事業者採択者が余裕を持って事業を実施できるように、採択を早期に行えるよう検討する。
- ・効果的な製品開発だけでなく、安定した工房運営を行うための原価計算、販路開拓、サービスなどの課題解決が必要であることから、工芸事業者の工房運営に対する関心や意識をさらに高める必要がある。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-ウ	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化	施策	① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大
			施策の小項目名	○販路拡大・プロモーション活動の支援
主な取組	県産品拡大展開総合支援事業			
対応する主な課題	①離島地域は、主要市場から遠く離れているため、原材料の仕入れ、出荷に係る物流コストが割高にならざるを得ず、市場競争力を低下させる要因となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
県外における沖縄フェア等のプロモーション、県内企業に対する見本市・商談会出展支援を行うことにより、県産品の認知度向上、需要の創出をはじめ、販路拡大を図る。		沖縄フェア 16回					>
		見本市・展示商談会 90回					>
							>
実施主体	県、支援機関、企業等						
担当部課【連絡先】	商工労働部マーケティング戦略推進課 【098-894-2030】						
		沖縄フェア、商談会等による販路拡大					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	183,239	127,643	119,220	57,173	60,613	74,857	一括交付金(ソフト)	OR3年度： 沖縄フェア開催40回、見本市・商談会出展支援71件を実施する。 OR4年度： 県産品のプロモーション活動5回、パイヤー招聘、見本市及び商談会出展支援15件

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 引き続きマーケティング・商品開発の専門アドバイザーを設置し、県内企業の商品開発支援及びノウハウ取得の促進を図る。 人との接触を伴わないオンライン見本市、商談会参加への支援、新聞広告やWEBサイトを使った広告への支援を行い、感染症の拡大防止から消費者を過度に密集させるプロモーションやイベント開催が制限された場合でも、県産品の認知度向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に引き続き、マーケティング・商品開発の専門アドバイザーを設置し、県内企業の商品開発にハンズオン支援を実施し、ノウハウ修得の促進を図った。 令和2年度に引き続き、人との接触を伴わないオンライン見本市及び商談会出展への支援を実施し、コロナ禍においても県産品の認知度向上を促進する取組を行った。



3 取組の検証 (Check)

(1)推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでは、商品開発に関する補助支援は専門アドバイザーによる支援も併せて実施してきたが、見本市及び商談会参加の補助支援に関しては、専門アドバイザーによる伴走型支援が不十分であった。そのため、県内企業において魅力的な支援として認識されていない。 県が県産品の振興策を効果的に実施するだけの情報(県産品の市場におけるニーズ、効果が見込まれる見本市及び商談会等)が不足ないし整備されていない。 	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度で終了する沖縄振興計画に係る施策に対する国及び県の点検から、過去10年間の支援によって県産品の認知度は一定程度向上した。しかし、輸送費コストによる価格面での不利性を解消するまでに商品の高付加価値化には不十分である。 商品の高付加価値化を推進するには、県外市場のニーズを把握し、ニーズに合った販路拡大が求められるが、県内にはマーケティングが脆弱な中小企業事業者が多い。
(2)改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none"> 補助支援のみならず、マーケティングに関するきめ細やかな支援が必要である。 県外消費者の県産品に対するニーズやトレンドに関する情報を集約し、分析する必要がある。 	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案 (Action)

- ・商品開発のみならず、バイヤー招聘、見本市及び商談会参加に係る補助支援においても、専門アドバイザーによる伴走型支援またはマーケティング及びそれに基づく販路拡大等に関するセミナーを開催するなどして、よりきめ細やかな支援を実施する。
- ・補助支援により得られる県産品に関する情報を収集し、他の県産品関連の事業からも得られる情報を総合的に分析し、県内企業への還元や今後の施策に反映していけるよう情報の整理を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-ウ	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化	施策	① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大
			施策の小項目名	○販路拡大・プロモーション活動の支援
主な取組	沖縄国際物流ハブ活用推進事業			
対応する主な課題	②離島特産品の製造業者が市場ニーズを把握することは困難であり、また、小規模零細業者が多いことから、独自に製品開発、販路拡大等を展開することは、資金力、生産力、人材、ノウハウ等の面から極めて厳しい現状にある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県産品の販路拡大を総合的に支援するため、県産品の商品特性の浸透を図るためのプロモーション事業を展開するほか、商品開発支援やビジネスマッチング、専門家による指導・助言、市場でのマーケティング調査を実施する。						
実施主体		県				
担当部課【連絡先】	商工労働部アジア経済戦略課 【098-866-2340】					
		海外販路拡大のためのプロモーションの実施				
		越境ECによる販路拡大				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄国際物流ハブ活用推進事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	395,327	297,574	288,235	333,503	725,358	125,399	一括交付金(ソフト)	OR3年度：県産品の海外販路拡大のため、コンテナスペース借り上げ、県内生産者等の海外渡航費等の助成、県産品プロモーション、越境EC支援を行う。 OR4年度：県産品等の海外販路拡大のため、県内生産者等の海外渡航費等の助成、販売戦略策定、販売実証・検証、越境EC支援を行う。	
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
									OR3年度：	
									OR4年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	海外小売店での沖縄フェア（食品分野）				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	25	22	6	20	7	7	100.0%	725,358	順調	<p>新商流構築の取組として国内事業者が運営する中国向けECサイトでの沖縄フェア（特設ページ開設）を1回、中国・香港・台湾向けに越境ECによる販売実証を6件実施、県産品の販路開拓に向けた現地輸入事業者等とのオンライン商談(香港29件、シンガポール30件)、海外展開セミナーを1回実施。</p>
活動指標名	海外における商談会（食品分野）				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	4	9	2	0	59	9	100.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>国内事業者が運営する中国向けECサイトでの沖縄フェア（特設ページ開設）及びアジア地域での越境ECによる販売実証、この他、現地輸入事業者等とのオンラインによる商談を実施、海外見本市の開催がないことから、県内企業の海外展開に向けてのセミナーを開催し、コロナウィルスに影響されない海外展開に取り組んだ。</p>
活動指標名	海外見本市への出展（食品分野）				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	2	1	3	0	1	1	100.0%			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・Eコマース等オンラインを活用した販路開拓の取組等、外部環境の変化に対応可能な海外展開策を支援する。 ・原材料としての県産品輸出について、現地企業（飲食業や製造業など）への商品化提案を継続して取り組む。 ・貨物便に加え、旅客便のネットワークも活用した物流ネットワークの構築に取り組む。 ・商流構成事業者（県内生産者、商社や海外生産者、卸・小売事業者等）と一体となった販売戦略を策定し、販売実証・検証に取り組む。 						<ul style="list-style-type: none"> ・海外コーディネーター等を活用し、紅芋ペースト（原材料）等県産品の販路開拓に向けた現地輸入事業者等とのオンラインによる商談を実施した。 ・越境ECによる販売実証、国内事業者が運営する中国向けECサイトでの沖縄フェア（特設ページ開設）等を行い新たな商流構築に向けた取組を行った。 ・コンテナスペース確保事業においては、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により国際航空便が運休となっている。なお、令和4年3月、中華航空による那覇ー台北間のスポット運航を活用し、輸送を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・平成21年度から、コンテナスペース確保事業が開始されたことにより、貨物の集約が図られるとともに、同事業の利用重量が増加している。

○外部環境の変化

- ・令和2年1月に県内で発生した豚熱の影響で県産豚肉の輸出が禁止されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、沖縄発着の国際航空便がすべて運休となっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本土経由での代替輸送ルートを確保し、支援を継続する必要がある。
- ・新型コロナウイルスの影響で現地に渡航しての取組ができないことから従来の取組だけでなく越境ECによる商流構築を図るなどの取組が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

- ・貨物専用機に加え、旅客便のネットワークを活用した物流ネットワークの構築に取り組む。
- ・県産品の認知度向上や商品の定番化を図るため、従来のフェアや見本市出展だけでなく、SNSやEコマース等オンラインを活用した販路開拓の取組等、外部環境の変化にも対応できる海外展開に取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-ウ	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化	施策	① 離島の特色を生かした特産品づくりと販路の拡大
			施策の小項目名	○販路拡大・プロモーション活動の支援
主な取組	沖縄工芸ふれあい広場事業			
対応する主な課題	③本県の離島工芸産業は、宮古上布や久米島紬など全国的にも評価の高い品目があるものの、地理的制約により、市場ニーズの変化への対応不足や人材の確保難等の課題があり、生産額は大きく減少している。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄の工芸品を一堂に集め展示紹介するほか、即売や実演・体験、産地講演会を行い、工芸品を暮らしの中へ活用する提案を行い消費拡大につなげる。		年1回開催				
実施主体	県、市町村、産地組合					
担当部課【連絡先】	商工労働部ものづくり振興課		【098-866-2337】			
		作り手と使い手との交流を促進する催事の開催				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄工芸ふれあい広場事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： PR及びわしたショップ工芸品キャンペーンを行った。	
県単等	負担	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	県単等	OR4年度： 東京銀座にて沖縄の工芸品を一堂に集めた展示会を開催する。	

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：	
									OR4年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	催事開催件数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1	1	1	1	1	1	100.0%	3,000	順調	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている集客型のイベントは行わず、予定していた工芸フェア出展も中止となり、PRとわした工芸キャンペーンを開催した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										新型コロナウイルスの影響のなかで、工芸品に関心を持ちそうな顧客をもつメディアを選定しPRを実施、またわしたショップでの工芸品キャンペーンなど、実施できる最大限のことは実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降の開催時期・場所（東京・関西・沖縄等）については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、令和3年5月頃に産地調整会議を開催し検討する。 インターネットを活用しつつ、一般来場者の誘客を強化するため、集客効果が見込める会場内での様々なイベントプログラムを組み込むなど、引き続き来場者誘客に向けてのアプローチを検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、例年実施している東京での大型イベントは中止となった。代わりに、新型コロナウイルスの影響のなかで、工芸品に関心を持ちそうな顧客をもつメディアを選定しPRを実施、またわしたショップでの工芸品キャンペーンを実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ふれあい広場の催事内容等については、工芸産地事業協同組合で構成される産地調整会議において決めることになるが、開催場所等の選定にあたっては多くの産地の意見が集約できるよう留意する。

○外部環境の変化

・毎年度、同時期・同場所で開催していることから、認知度も高くなり、会場は多くの来場者で賑わっている。しかし、染織等の反物・帯等を求める客(裕福層)が多くを占め、まだまだ、陶器・漆器・ガラス・染織小物等を購入する一般客の割合が少ない。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ふれあい広場の開催については、沖縄工芸品の更なる認知度向上や販路開拓の為に、好評である現状の開催地(東京)を継続させつつ、新たな可能性(開催会場や費用等)についても検討を重ねる。

4 取組の改善案 (Action)

・令和4年度以降の開催時期・場所(東京・関西・沖縄等)については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、実行委員会及び産地調整会議を開催し検討する。

・インターネットを活用しつつ、一般来場者の誘客を強化するため、集客効果が見込める会場内での様々なイベントプログラムを組み込むなど、引き続き来場者誘客に向けてのアプローチを検討する。